

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

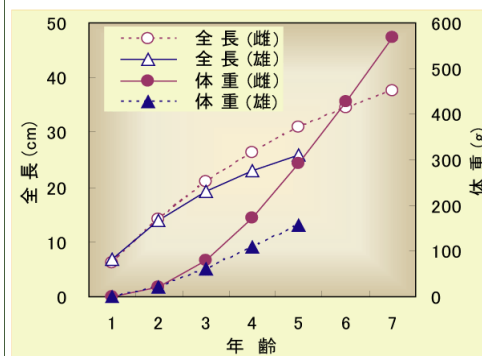
系群名 日本海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8歳
成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域および島根県浜田沖
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
食性: エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高い
捕食者: エビジャコ類(幼稚魚期)

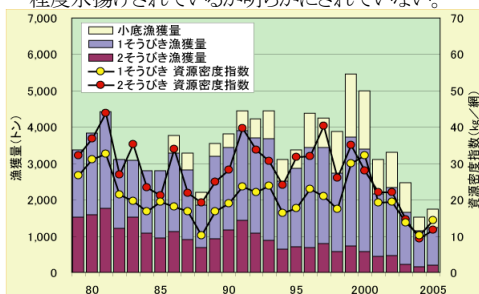


漁業の特徴

日本海西部海域では、1そうびきと2そうびき沖合底びき網(沖底)、小型底びき網(小底)などの底びき網や刺網、釣・はえ縄等で漁獲されているが、漁獲の大半は底びき網によるものである。1そうびき沖底の漁場は島根県以東の海域が中心であり、2そうびき沖底は対馬周辺海域～島根県沖が漁場である。1988年以前は、1そうびきと2そうびき沖底の漁獲が底びき網による漁獲の80～90%を占め、残りが小底によるものであった。1988年以降は沖底の漁船数が盛期の50～70%に減少したこともあり、近年は小底による漁獲割合が若干高くなっている。

漁獲の動向

漁獲量は数年にわたる増減傾向を持って推移しており、1999年に5,000トンを超える最高値を示した後、著しい減少傾向が続いている。2004年には1979年以降最低の1,500トンまで減少し、2005年もほぼ同水準の1,700トンであった。2005年に日本の200海里内において韓国漁船により692トンのカレイ類が漁獲されているが、そのうちソウハチがどの程度水揚げされているか明らかにされていない。



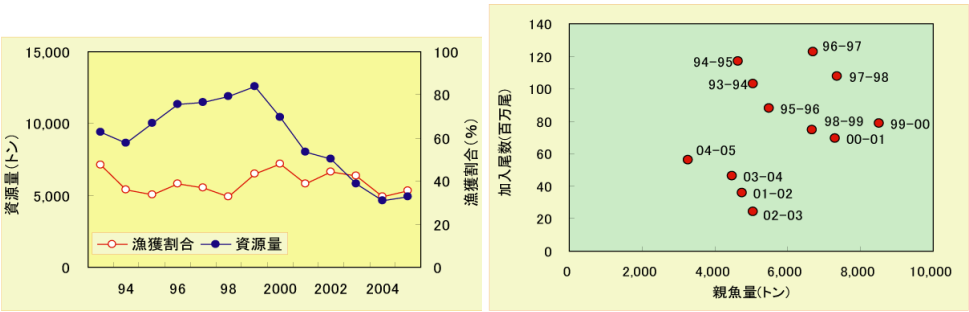
資源評価法

漁獲量、漁獲努力量等の情報を収集し、漁獲物の生物測定結果とあわせて年齢別の漁獲尾数による資源解析を行った。

資源状態

資源量は1993年の9,400トンから1999年の13,000トンに増加した後、減少傾向を示し、2004年には4,600トンにまで落ち込んだ。2005年の資源量は2004年と同程度の4,900トンであった。加入量(1歳魚)は1993～1998年には高い水準にあったが、1999～2001年にやや低下し、2002～2003年には著しく低くなった。2004～2005年には2002～2003年に比べてやや高い加入があったと考えられる。親魚量は1993～1999年に増加した後、減少が続いている。加入量の減少は、環境の影響が大きいと考えられる。しかし、2000年前後には2歳以上に強い漁獲圧がかけられていて、加入量の水準が低下した資源を急速に減少させたと推察される。



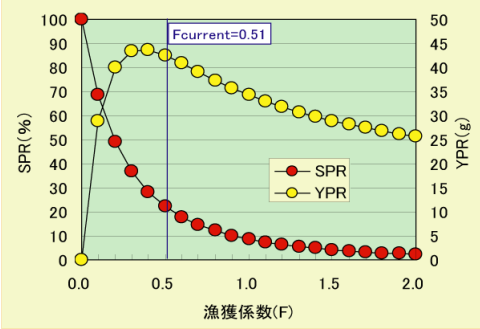


管理方策

2002～2003年に極めて低かった加入量は2004～2005年にはやや回復した模様であるが、2001年以前の水準には及ばないと考えられる。漁獲圧は漸減傾向にあるが、資源が近年の最低水準にあって、強い漁獲圧のもとではさらに減少する可能性があることから、若干漁獲圧を下げる事が望ましい。資源動向を注視しつつ、近年の最低漁獲量である2004年と同程度の漁獲量水準に留めることが妥当であろう。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	1,500トン	0.7Fcurrent	0.36	30%
ABCTarget	1,200トン	0.8・0.7Fcurrent	0.28	25%

- 漁獲割合はABC／資源量
- Fcurrentは2005年のF
- F値は各年齢の単純平均



資源評価のまとめ

- 資源は低位水準にある
- 2004年と2005年の加入量はやや回復した
- 環境とともに漁獲の影響も大きい

管理方策のまとめ

- 資源動向を注視する
- 若干漁獲圧を下げる事が望ましい
- 近年の最低漁獲量である2004年と同程度の漁獲量水準に留めることが妥当

資源評価は毎年更新されます。